

### 監査報告書の考え方

#### ーオピニオン・レポート vs インフォメーション・レポートー

松 本 祥 尚

#### 目 次

- |                |              |
|----------------|--------------|
| 1. はじめに        | 4. 監査報告書の情報化 |
| 2. 監査報告書の意義と構造 | 5. 終わりに      |
| 3. 短文式監査報告書の完成 |              |

わが国で検討されている「監査報告書の透明化」としての監査報告書の記載内容に関する議論は、想定する利用者によって異なる。会計や監査に関する専門知識を欠く利用者にとっては、簡潔明瞭性の観点から短文化・定型化された監査報告書が望ましいのに対して、一定の専門知識のある利用者にはより詳細化されたものが好適となる。加えて、これまでブラックボックス視され、タブーとされてきた監査人からの情報提供を前提に、種々の監査上の情報を監査報告書で開示することが検討されている。本稿では、監査報告書の本質に関する議論を振り返った後、「監査上の情報」を含めた監査報告書の姿を概観し、情報仲介者としてのアナリストの役割を指摘するものである。

#### 1. はじめに

現在、わが国企業会計審議会監査部会は、監査報告書の記載に関する改訂作業を進めている。わが国ではオリンパスや東芝等の粉飾決算を受けて、2016年3月8日に会計監査の在り方に関する懇談会から「会計監査の信頼性確保のために」（金融庁〔2016〕）が提言された。そのなかで「会計監査に関する情報の株主等への提供の充実」の

一環として、会計監査の内容等に関する情報提供が今後の課題として挙げられた。その後、2017年6月26日に金融庁から公表された『「監査報告書の透明化」について』において、「『透明化』の導入が国際的に進められる中で、我が国においても会計監査の透明性向上は重要な課題であり、今後、企業会計審議会において、上記の実務上の課題についての検討を進め、『透明化』について具体的な検討を進めていくことが期待される」（金



松本 祥尚（まつもと よしなお）

関西大学大学院会計研究科教授。1989年神戸大学大学院経営学研究科博士前期課程修了。同年4月、香川大学経済学部助手。同講師、助教授を経て、98年4月、関西大学商学部助教授、教授。その後、2006年4月より現職。主な著書に、『ベーシック監査論』（共著、同文館出版、15年）、『わが国監査報酬の実態と課題』（共著、日本公認会計士協会出版局、12年）がある。